

発達障害児の母親と支援者間をつなぐ ICT を用いた 交換日記帳システム

—日々の協働から育むペアレントトレーニングを目指して—

(中間報告)

福井大学教育地域科学部	日本学術振興会	小 越 咲 子
福井大学教育地域科学部		廣 澤 愛 子
障害者職業総合センター		武 澤 友 広
福井大学教育地域科学部		三 橋 美 典

An electronic exchange diary system to aid in the support of mothers of children with developmental disorders

～Parent training in cooperation between the mother and supporters～

Japan Society for the Promotion of Science,

Faculty of Education and Regional Studies University of Fukui, OGOSHI, Sakiko

Faculty of Education and Regional Studies University of Fukui, HIROSAWA, Aiko

National Institute of Vocational Rehabilitation, TAKEZAWA, Tomohiro

Faculty of Education and Regional Studies University of Fukui, MITSUHASI, Yoshinori

要 約

発達障害児の家族は様々な困難を抱えており、特に母親のストレスの度合いや育児に関する負担は、障害の無い子どもや他の障害児の家族と比較して非常に高い。しかし日々の多忙さから、必要と分かっているにもかかわらず母親へのストレスマネジメントができない状態が続いていることが多い。そこで、本研究では、子どもが就寝後に母親が自分自身と向き合い、また時間的・空間的な障壁なく支援者とのつながりを持てるような方法としてインターネットを用いた電子交換日記帳の設計・開発を行い、電子交換日記の利用が及ぼす母親の心理的な効果の検証を試みた。

【キー・ワード】発達障害, 母親支援, ICT

Abstract

Families of children with developmental disorders and mothers in particular have considerable stress management issues that result from meeting the challenges of providing child care. Even in the face of these high stress levels mothers of children with developmental

disorders are often left with little or no time to attenuate these accompanying stress levels due to the constraints placed upon her time meeting the challenges of providing child care. With this in mind, in this study, we designed and developed an electronic exchange diary using ICT that mothers can utilize at their discretion throughout the day and in particular at night after the child has gone to bed. The removal of temporal and spatial barriers by means of the electronic exchange diary facilitates relationships between mothers and members of their support network. Further we tried to verify the psychological effects upon the mothers.

【Key words】 Developmental disorders, Support for mothers, ICT

はじめに

発達障害児をもつ保護者特に母親への負担は非常に高く（芳賀 2006 2010）、高い率で気分障害、うつ病が発症することが指摘されている（辻井 2009）。発達障害児の育児は特性上こだわりやパニック、学校での問題等育児負担が強く、また将来に関しての不安が常に存在する中で母親のストレスの度合いが高くなることは容易に推測される。また、実際にうつになった場合発達障害児の育児に対して影響が出る可能性が高く、母親のストレスマネジメントは喫緊の課題である。

しかしながら、日々の多忙さから母親自身のストレスマネジメントができない状態が続いていることが多い。そこで、本研究では、子どもが就寝後に母親が自分自身と向き合い、また時間的空間的な障壁なく支援者とのつながりを持てるような方法としてインターネットを介した ICT を用いた電子交換日記帳の開発を行い、ICT システム利用の有効性を検証することを目的とする。

ICT システムを用いた発達障害支援システム研究としては、国内では湖南省発達支援 IT ネットワーク（湖南省 2006）と特別支援教育研究所のシステム（e-iep:日本支援教育実践学会）、及び我々が先行研究として開発運用している学校と家庭と専門家をつなぐ発達障害児者支援システム（小越 2010）が存在するが、本システムの特徴としては、直接的には保護者支援を行うものであり、母親の成長・変化により間接的に発達障害児を支援するという環境要因からのアプローチが特徴となる。

方 法

対象者 発達障害児をもつ母親 10 名、発達障害児の療育支援者 4 名

福井大学の発達障害児に対する学習支援及びソーシャルスキルトレーニングを行っている「たんぼ教室」と「楽集クラブ 3 9 1」所属の児童の母親とスタッフにシステム利用の説明を行い協力いただいた。

開発方針 発達障害児の保護者・心理関係専門家、情報工学専門家をステークホルダーとして、システムの核となるメイン機能の設計、開発を行う。

評価方法 交換日記帳の使用に伴い、母親のストレスと自己肯定感がどのように変化するのか、面接及び心理尺度を用いた評価を行い、交換日記帳の心理的効果を検証し、その効果を明らかにする。

調査内容

- ① Rosenberg 自尊感情尺度
- ② ハピネス尺度
- ③ バウムテスト
- ④ インタビュー調査

システム利用前後に①Rosenberg 自尊感情尺度と②ハピネス尺度によりアセスメントを実施。

システム利用前に③バウムテストを実施し、システムを 10 日間利用後に④インタビュー調査を行う。

システム要件 ステークホルダーの意見から必要な要件を以下のようにあげた。

- ① 発達障害児の支援というパブリックな面よりも、支援者と保護者が日常生活のことなどプライベートな話を話しやすい環境にすること。
- ② フリートークのような規則のない日記ではなく、あらかじめ質問項目を設けることでポジティブな記憶を想起しやすいものにすること。
- ③ 保護者が子どもの良い面・長所を感じ取れるようにできるもの。
- ④ 保護者がネガティブな思いも抑えずに遠慮なく記入できるようにするもの。
- ⑤ 保護者が支援者に対し、自由に質問ができるような質問項目を設けること。
- ⑥ 支援者側は保護者の回答に対し、不安な面があれば一緒に考え、支える態度、またポジティブな記憶を保護者が思い出していけるような介入を行い、保護者とともに歩む姿勢を伝えられるようにすること。
- ⑦ 日記の履歴を時系列で蓄積すること。

システム機能

セキュリティ体制の構築 連結可能匿名化を用いた情報管理、ID パスワードによる権限管理を行った。

画面設計(機能設計) 上記システム要件を満たす交換日記帳システムの画面設計機能設計を行い、システム開発を行った。

画面遷移図として図 1 支援者用画面遷移図、図 2 母親用画面遷移図を参照。

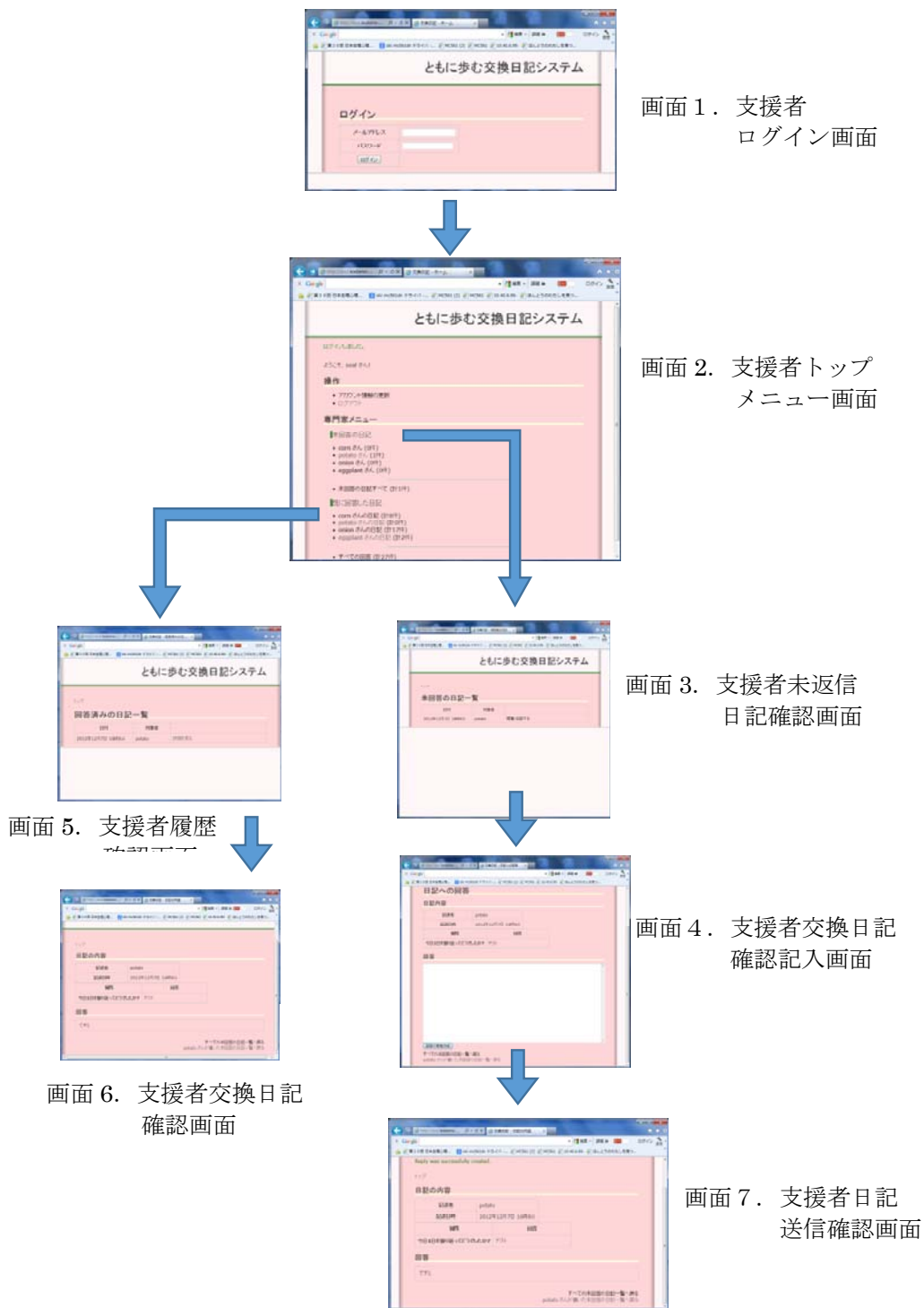


図 1 支援者用画面遷移図

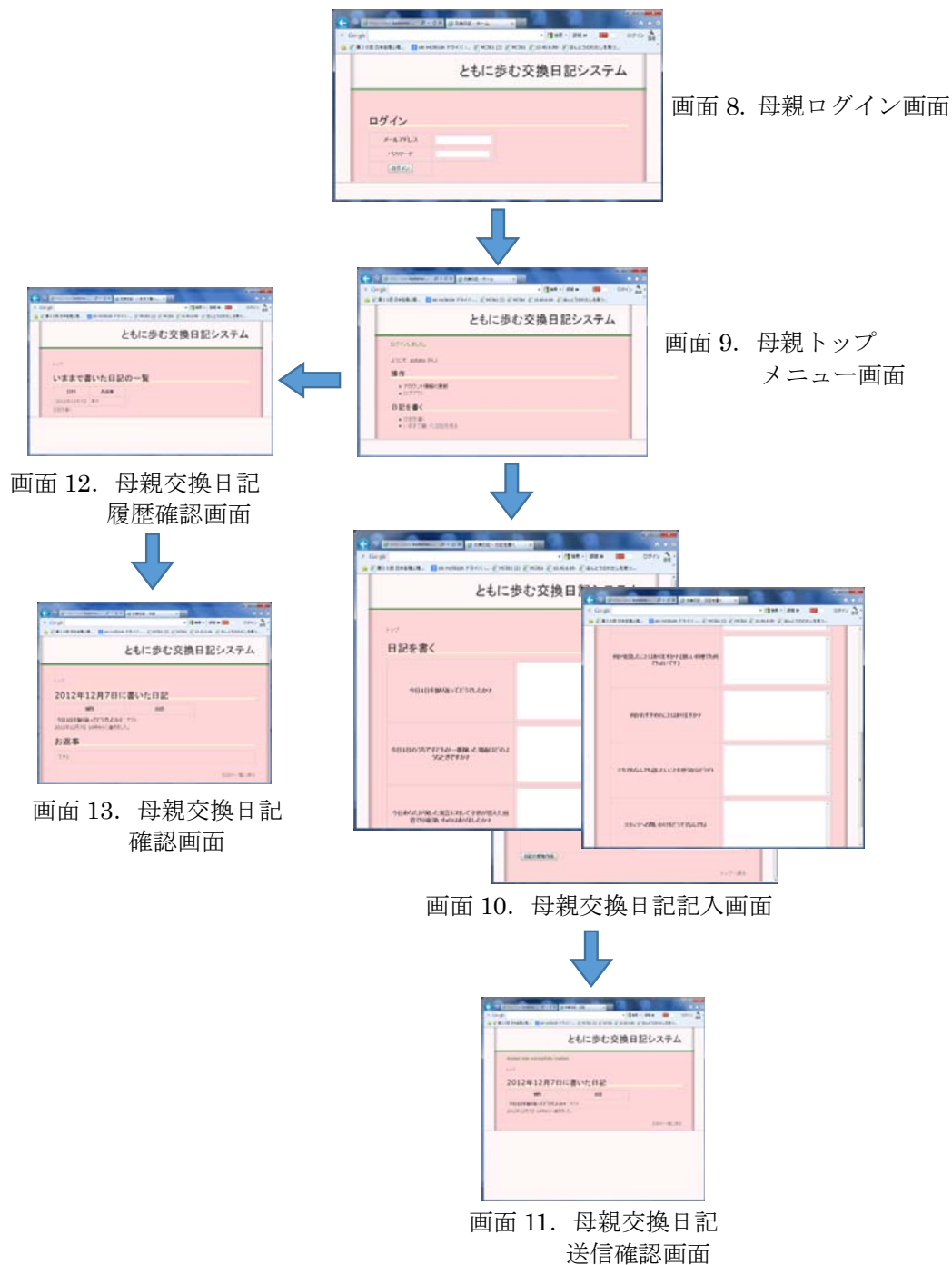


図 2 母親用画面遷移図

画面 10、画面 4 の日記記入について、母親交換日記記入画面において質問項目 7 つの質問項目の中から利用者が書きたい項目を自由に選んで書き込み、支援者交換日記確認記入画面において支援者

はそれを読んでアドバイスなどのコメントを返す。質問項目は以下の通りである。

- ・ 今日一日を振り返ってどうでしたか？
- ・ 今日一日のうちで子どもが輝いた場面はどのようなときですか？
- ・ 今日あなたが発した発言に対して子どもが答えた回答で印象深いものはありましたか？
- ・ 何か発見したことはありますか？（新しい料理でも何でもよいです）
- ・ 何かおススメのことはありますか？
- ・ 愚痴でもなんでも話したいことを思う存分どうぞ！
- ・ スタッフへの問いかけをどうぞ！（なんでも）

現在の進捗状況および今後の方針

システムの設計開発段階は終了し、現在 10 人の被験者において 10 日間のシステムの利用を実施しインタビュー調査を行っている。今後、電子交換日記の利用が及ぼす母親の心理的な効果の検証を行い、インタビュー結果よりシステム機能の改良を行う。

引用文献

- 芳賀 2006 注意欠陥／多動性障害，広汎性発達障害をもつ母親の不安・うつに関する心身医学的検討
Jpn J Psychosom Med 46:76-86,2006
- 芳賀 2010 知的に正常な発達障害がある母親への心身医療と発達障害児の養育環境 Jpn J Psychosom Med 50:293-302,2010
- 辻井 2009 平成 21 年度厚生労働科学研究費補助金障害保健福祉総合研究成果発表会報告書
- 成田 2010 オンライン個別の指導計画策定ツール"e-iep"の評価に関する報告 電子情報通信学会技術研究報告 ET, 教育工学 110(209), 33-36, 2010-09-18
- 湖南省 2006 湖南省特別支援教育ハンドブック ver 1. 1.
- 小越 2012：“ICF-CY を用いた学校と保護者と専門家をつなぐ気がかりな児童のための協働型支援システム”，電気学会論文誌，Vol. 132-C, No. 2, pp. 325-331, 2012